



東京学芸大学附属国際中等教育学校

令和6年度 第9回公開研究会のご案内（第2次）

IB教育の理念に基づく、 概念的理解を志向した教科の枠に閉じない学び —現代的諸課題に向き合える生徒の育成—

令和6（2024）年10月吉日

各 位

東京学芸大学附属国際中等教育学校長 荻野 勉

学習指導要領は、各教科等の特質に応じた見方・考え方を大切に育てながらも、「教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと」を求めています。本校が、国際バカロレア教育を基盤にこの「教科等横断的な視点での組み立て」をどのように達成しようとしているのかを、「文理融合基礎枠」でスーパー・サイエンス・ハイスクール3期目指定を受けたこの機会に皆様にご案内いたします。

11/23 (祝)
8:30~

会場 東京学芸大学附属国際中等教育学校

後援 東京都教育委員会・練馬区教育委員会



お申し込み

11/15 (金)
17:00 まで

当日参加も可能ですが、準備の関係上、
Webサイトからの事前のお申込みにご協力ください

<https://peatix.com/event/4154982>

本研究会は教育関係者を対象としております
参加費は無料です



当日スケジュール

8:30	9:00 ～10:10	10:25 ～11:25	11:15 ～12:05	12:05 ～12:55	13:10 ～14:00	14:15 ～15:30	15:45 ～17:00	17:10 ～18:00
受付	全体提案	生徒 探究活動発表	昼食	公開授業①	公開授業②	協議会①	協議会②	SSH 情報交換会

国際教養

生徒探究活動発表

国際教養は、ISSで過ごす6年間の軸となる本校独自の学習領域です。生徒は三つの柱（国際理解・人間理解・理数探究）を通して現代的な諸課題について主体的・協働的に取り組み、国際教養講座、ワークキャンプ、学園祭、探究活動、SA活動、教科との連携、を通して、さまざまな資質や能力を身につけていきます。活動内容や成果、生徒の捉え方については、ぜひ生徒探究活動発表にご参加ください。

公開授業・協議会

概念「ものの見方」を主軸にした教科等横断的な取り組み

1年生
(中1)

学年所属グループの全員がそれぞれの教科で「ものの見方」を意識した授業を展開し、生徒に概念的理解の深化を促す授業設計を行ってきた。本研究授業②ではその概念的理解の解釈と実社会との関連付けを行う。

公開授業① 国語 「竹取物語」 浅井 悦代

公開授業② 国際教養（総合的な学習） 馬田 大輔 ・ 手塚 史子

協議会主題：生徒の概念理解を促すための教科横断的な授業設計

<協議会 助言者> 藤野 智子 教授（東京学芸大学 大学院 教育学研究科）

生徒が主体的に学びを転移させる授業デザインと実践

3年生
(中3)

「教科の枠に閉じない学び」を教科教育の中でどのように実現し、生徒が自ら学際的な学びを行うためにどのような授業デザインがよいかを参観者とともに深めていく。

公開授業② 数学 ～モデルに表すこと～ 新井 健使

協議会主題：生徒が主体的に学びを転移させるために

教科教育でできること



情報を吟味し、解釈・評価できる批判的思考力の育成

5年生
(高2)

メディアの表現や発表形式がもたらす影響を理解し、多角的なものの見方ができるための授業デザインについて様々な教科での実践を共有して議論を深めたい。

公開授業① SS化学基礎 酸と塩基 森本 裕子

協議会主題：生徒のメディアリテラシーと

批判的思考力育成のための方策

共通の概念に対してそれぞれの学問分野はどのように理解を深めているのだろうか ～「正当化」を例に～

DP

授業デザインについて様々な教科での実践を共有して議論を深めたい。5年生・6年生という異なる学年、異なる教科・文脈で扱う共通の概念、「正当化」「解釈」の学びを通して、生徒の中での概念理解が成熟し、深化していく過程を研究する。

公開授業① DP5 文学 漫画の分析・解釈を通して捉える「正当化」の概念 廣瀬 充

公開授業② DP6 化学 個人研究実践から捉える「正当化」の概念 鮫島 朋美

協議会主題：DPの学びを通じて生徒はどのように

概念的理解を深めているのか

<協議会 助言者> 武藤 哲司 先生（文部科学省IB教育推進コンソーシアム事務局長）



見えない関係性を可視化する

～数値化と言語化に着目して～

2年生
(中2)

目に見えない関係性を可視化する形式として、数値化や言語化がある。可視化するための形式による違いを知り、可視化することで見えるものと見えなくなるもの、その関係性について考える。

公開授業② 物理入門 ～運動とエネルギー～ 川上 佑美

協議会主題：知識を構築する際の各教科における

可視化の形式と描き出される関係性

変化に着目して事象の振る舞いを捉えようとする生徒の育成

4年生
(高1)

複数の教科・科目が連携し「事象の振る舞いを把握するために局所的な変化やパターンに着目してその関係を表すことがしばしば有効である」という概念的理解の形成を目指した。SS数学A「数列」の単元において概念的理解の形成にどう迫ることができるか追究していきたい。

公開授業① SS数学A 数列 野島 淳司

協議会主題：概念的理解の形成を目指した単元設計と授業のあり方

<協議会 助言者> 西村 圭一 教授（東京学芸大学 大学院 教育学研究科）

時間・場所・空間の概念を通して自分の位置を探究する

～生徒の視座を高める単元設計～

6年生
(高3)

時間・場所・空間の概念が、そのような考察に生徒を導くうえで重要な役割を果たすと考え、開発した授業を公開する。響を理解し、多角的なものの見方ができるための授業デザインについて様々な教科での実践を共有して議論を深めたい。

公開授業① 世界史探究 探究主題と探究方法の設定 前田 陽子

公開授業② 古典探究 古人の「知」に迫る 杉本 紀子

協議会主題：概念を通じた考察により、教科の枠を超えて考察できる

生徒を育成する～生徒の視座を高める単元設定～

SSH情報交換会

本校のSSH第3期が「文理融合基礎枠」としてスタートしました。学習の転移を目指した授業や、IBを生かした「科学とは何か」を考える授業の実践を紹介します。また、「文理融合」の課題研究の促進の工夫についても共有します。各校の実践を共有し議論できればと考えています。

Access

▶ 電車
西武池袋線「大泉学園駅」徒歩8分

▶ バス
西武バス・関東バス「学芸大附属前」

駐車スペースがありませんので、お車でのご来校は
ご遠慮ください

Contact

東京学芸大学附属国際中等教育学校 研究部

〒178-0063 東京都練馬区東大泉5-22-1

☎ 03-5905-1326 FAX 03-5905-0317 ✉ kenkyu@tguiss.jp

<https://www.iss.oizumi.u-gakugei.ac.jp/>